

	みずみどり	2006年1月15日 第52号
		発行：いたばし水と緑の会 事務局
		年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 <a href="http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/">http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/</a> E-mail : mizumidori@nifty.com
		〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

## 昔の雑木林と農業とくらしについて

### 赤塚にお住まいの沖田さんと本橋さんに聞く(2)

2005年9月26日、沖田萬司さん宅におじゃまし、小学校の同級生だった本橋金藏さんにも来ていただき、昔の赤塚のこと、雑木林と農業のこと、自然の中での遊びのことなどを、お話をうかがった。お二人とも昭和8年生まれ。前号の雑木林、燃料、田んぼの話に続き、畑や自然がいっぱいあった頃の遊びなどを紹介します。写真は、本橋さんが昭和40年頃区画整理の始まる前に撮影されたものです。



昔の赤塚ため池（郷土資料館の前の道路方面）

## 野菜のはなし

野菜を洗ったのは家の井戸と洗い場で、下の（ため池）の水では洗わなかった。川越街道を通って売りに行くので、その途中にある百々向川の洗い場や前谷津川の橋本橋のところで洗った。

このあたりでは、みんなたくあんを漬けた。今と違って大きくて太い大根だ。固い首の所を鮫皮でこすって、干し上がりが均一になるようにした。縄に下げるときも大きいので抜けないようにバランスよく干すのはけっこうむずかしい。縄も右ばかり撚るとねじれてしまうので、途中で逆にしたり、干し上がりの悪い首のところによく日に当たるように向けたり等、今考えると大根を干すだけでも、いろいろな知恵と工夫があった。

## 遊び

- ・ 魚とりにはエゴノキの実を使った。エゴノキの実をすりつぶして、荒川の河川敷にあった水路に流し、その毒で浮き上がった魚を捕った。
- ・ 空気銃で鳥を撃った。よく撃ったのはヒヨドリ。今ではヒヨドリはどこでもいるし、すぐ近くまで来るが、当時はなかなか目につくものではなかった。
- ・ かすみ網で、鳥を捕ったこともある。中学生頃、かすみ網でウグイスなどを捕ま



赤塚ため池の北側から城址の山をのぞむ

えて飼った。ウグイスはなかなかエサに慣れず、死なせてしまうことも多かった。うまく慣れて飼えると、電灯をつけて明るくし（人工的に日照時間を長くして）早めに春にしてやると、早く鳴かせることができる。

- ・ ヒバリは、巣の在処を悟らせないために、舞い上がる場所と、舞降りる場所が違う。ずーと見ていて、舞い上がる場所と降りる場所の間をめがけて土をぶつけると、ヒバリは巣をカモフラージュする余裕もなく飛び立つ。飛び立った所へ行くと巣を見つけることができた。

## わら細工

- ・ 縄ない：足踏み式の機械から、戦後はモーター付きの縄ない機になった。わらを絶えず補給しないと均一の太さに仕上がらないので居眠りなど出来ない。
- ・ むしろ編み：二人で作業した。
- ・ 俵編み：俵編み用の縄はわらの茎の部分だけ使って細いしっかりした縄を用いた。
- ・ 棧俵（サンダワラ）編み：俵の両端につけるわらのふたを棧俵と言うが、これを作るのはとてもむずかかった。（泉 貞代、坂本 郁子）



# 榑の木は押っ立っていた

タンタンタヌキの金之助には及びもつかない小物持ちの小心者なれど  
それでも広げてみました！タブノキに関するお正月ならではの大風呂敷

## ●タブノキってなんじゃろ・・・最も愛された木

愛された、と読んですぐに記紀の国生み神話の最初の部分を連想されたあなたは、板橋区民の鑑です。指南役は区の鳥ハクセキレイ、凸凹は見事に「合体」の高みへと極まったわけですね、よかったよかった。のっけから異な方向へと進んでしまったのですが、愛された理由はタブノキを指す異称＝方言名が多いからで、タブノキの幹や枝に手ごろで心地良くなる凸凹が目立ったからというわけでは、決してありません。沖縄のトモロから愛媛ドウネリ、埼玉モチシバ、岩手のアオノキまで100種に上るそうですから、人間さまの生殖器も真っ青ですねえ。ぼぼ、ちょんぺ、つんぴー、べっちょ・・・文化の香気芬々たる地方名が絶滅の危機に瀕する一方で、大槻文彦『大言海』が出どころの万幸にご丁寧に「お」を付したのがでかい顔をしている惨状には目を覆いたくなるのですが、それ自体を凝視するのは嫌いではない、どころかかなり好きな方ではないかと年がら年中、日夜悶々としている・・・というのが実情かな。

大言海ついでに、タブノキを指す「榑」は国字であって漢字ではないので、諸橋轍次や白川静といくらにらめっこしても無駄ですからご無体には及ばないように。木偏はともかく隣の「府」の意味するところは、①くら＝宝物や文書をしまふ建物、②役所、政府、③みやこ＝政府のある町、または地方政府のある町、④邸宅、屋敷、⑤もの集まる所、⑥胃や腸などの消化器官となっています。気になるのは⑤の例として怨府という熟語に「多くの人の怨みの集まる所」との解説が付してあることでしょうか。全体としてタブノキにとっては、「榑」の字は万々歳といったところでしょう。いかにタブノキが重宝され、重要視されていたかわかろうというものです。

次にタブノキがなぜタブノキと呼ばれるようになったか、すなわち語源、由来を尋ねてみることにしましょう。諸説入り乱れるお仲間のクスノキのそれとは違って、かなり有力な一説に収斂しています。古代朝鮮の慶尚道（韓半島南東部）の方言で、独木舟を指す語がなまってたぶとなり、そのたぶをつくる木ということでたぶの木、タブノキと変化したというものです。たぶとは丸木舟ということです。クスノキに比して耐寒性に優れるタブノキは半島南部に分布するのに対して、クスノキは済州島にしか生えません。ですからBC500年からAD500年までの1000年の間に、大

きな流れとして4波100万人は、よほどの泳者でないかぎり、タブノキを足がわりにして勇躍対馬海峡を渡ってきたことになります。タブノキを愛すること一入のはずです。

国字としての楡は、現在中国では「紅樟」と漢字表記されるらしいのですが、魏志倭人伝では、「豫樟」、日本書紀では「櫟樟」と出てくるのが、タブノキということになります。輸送手段として大貢献するタブノキは、日常生活においてもその有用性を遺憾なく発揮しています。果実は食用となり、樹皮は織物や漁網の染色、樹皮の粉末を楡粉といい線香の粘着剤となります。下って美術品や棚・盆・パイプや楽器・家具・下駄、そして本業の船材、枕木・建築物の土台として八面六臂、縦横無尽の大活躍、愛されるわけですねえ。

### ● こんな所にもおじゃったがな・・・百聞は一見に如かず

個人邸に押し立っているとしたら、それは大豪邸だろうし、この手の敷地には高〜い塀が巡らしてあるのが常識だし、街路樹として道路に植えられているという話ほとんど聞かないし・・・というわけで、その姿形＝樹形に親しく接せられた皆様はそう多くはいらっしゃらないはずですが、では身近な場所での、とりあえずの紙上見学会を開催します。

まず、ホモ・モーベンスを自任・実行されている方は、江戸時代弘化年間に熊野権現宮と呼称され、「江都近郊名勝」になっていた志村熊野神社まで、旧中山道清水坂とセットにされて参拝されればよろしい。拝殿に覆いかぶさっているタブノキの深厳に思わず同化したいという精神のインパクトに魅了されることでしょう。

次にシルバーパスを所有されている人生のベテラン陣は、遠慮なく地下鉄大江戸線は汐留駅から数分で着く浜離宮庭園にいらっしゃればよい。敬老割引制度もあるはず



和光市樹林公園北側列植部分  
12月1日で混芽はこんなに大きくなっている。

です。300年以上も人間さまの世迷い言に付き合ってきた、どちらかというと言知り顔タイプのタブノキの列植集団を下から拝顔できます。土塁上に鎮列されていますので、なかなか葉と手を取り合っているとはいかないのが、玉に瑕ではありますが・・・。

さらに歩くのはもちろん地下鉄に乗るのも嫌だ、俺は文明人だと自己主張なさるホモ・オートモービルズなあなた、お誂え向きの物件をご用意させていただきましたよ。しかも入園料はなし、おまけに無料駐車場にトイレも完備と至れり尽くせりです。隣県は和光市にある和光樹林公園がその好物件で、北側と南側に防風林と境界林を兼ねて列植されています。このタブノキが素晴らしいのは、樹齢の若さも手伝って下枝が豊富なことで、結果、視線を下向きにしての観察が可能なのです。いわゆる「お触り自由」というわけです。すっかり葉を落とした落葉樹を尻目に、艶やかな葉肌たちの中心に丁子色の混芽を此見よがしに屹立させているのが寒中のタブノキです。



公園北側の列植部分  
親子で仲良く日なたぼっこ



公園南側 列植の樹冠下  
この実生の広がりよう。  
中央 枯れ枝2本はオオム  
ラサキツツジ。



公園南側列植  
西から東方向を望む

さらにさらに歩くのはもちろん、公共交通機関も嫌、ましてやたら石油資源を費消し大気汚染を招く自動車なんて真っ平御免というエコポリス板橋の権化みたいなあなたは、きっとテレビ命な人なのでしょう。でもタブノキには触れてみたいというあなたのわがままな熱意に絆されたということにして、ここで取って置きのタブノキ樹形彷彿そっくり人間を紹介させていただきます。ここで登場するのがタブノキで造られた独木船形タイムマシン、ご乗船いただきます。

ところで（この接続詞は約45年分に匹敵します）、あなたはあの奄美大島出身のちょっと「大」とは冠しにくい横綱・朝潮太郎を覚えていらっしゃるでしょうか。栃若時代を継いで「朝若時代到来」とほんの一時期、一部の新聞をにぎわした、あの高砂部屋の朝潮ですよ。勝ち星や優勝よりは、揉み上げと胸毛のセクシーさで強烈な印象を残した彼の身体を5倍ほど拡大すれば、立派なタブノキそのものです。

どうもいまひとつイメージが湧いてこないとお悩みの貴兄はレンタルビデオショップへ走ってください。戦後大相撲名横綱大全などと銘打たれたビデオの隅の方に収録されていることでしょう。た・ぶ・ん。

これで皆様に十分にタブノキに接していただけたこととして、朝潮を縄文人、高砂部屋を日本列島、そして45年後の現在、無敵を誇る朝青龍を弥生人との仮構フレームの下で、古墳時代以降の歴史を考えてみるのもちょっと乙ではないかいな・・・酒量に不足を来した正月を反省して、3月花見酒にはど〜んと酒量アップと行きたいところです。では再見！（小物持ちの小心者）

（写真撮影日2005年12月1日 和光樹林公園）

# 活動のお知らせ

●運営委員会は毎月第1金曜日です。どなたでも参加できます。

2月運営委員会： 2月3日(金) 18:30~20:30

3月運営委員会： 3月3日(金) 18:30~20:30

いずれもエコポリスセンター環境学習室です。

●会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：3月15日(水) 18:00~ 場所：エコポリスセンター

変更する場合もあるので、事務局にお問い合わせ下さい。

●活動の問い合わせは瀬田まで(3969-7124)

毎月第4土曜日が定例の活動日です。この日は、赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に自然観察やゴミ拾い、課題があった場所について別途必要な修理等を行っています。原則として雨天も実施します。

## 見学会「板橋の雑木林は今」

水と緑の会、成増雑木林を育む会、シニアスクール修了者の会合同実施。残された雑木林、開発寸前の雑木林など、成増の雑木林の現状を見学します。あたたかくしてお出かけ下さい。見学会の結果を「環境なんでも見本市」で展示発表します。

日時：1月22日(日) 10:00~12:00 集合場所：東上線成増駅改札口

お互いの名前がわかる名札をつけて参加してください。

## 1月の活動 城址観察会とゴミ拾い

ヤドリギ、シロダモの花、カマキリの卵等冬の自然をさがしましょう。

日時：1月28日(土) 10:00~12:00 集合場所：赤塚トンボ池前(板橋美術館そば)

## 第4回環境なんでも見本市「次世代に身近な自然を残したい」のテーマで出展

日時：2月11日(土) 10:00~17:00、12日(日) 10:00~16:00

場所：エコポリスセンター

## 2月の活動と新年会？！

日時：2月25日(土) 10:00~15:00

場所：午前の部は赤塚トンボ池(美術館そば)、午後は赤塚5丁目集会所

内容：梅まつりに備えて清掃と、材料の準備をします。午後は時期はずれの新年会です。

2006年の活動エネルギーを注入しましょう(参加費あり)。

## 梅まつり参加の予定です

日時：3月4日(土)、5日(日) 10:00~15:00

集合場所：板橋美術館前のトンボ池

## 生き物のすめる環境整備の活動(冬期は不定期)

お手伝い下さる方は連絡下さい：坂本3968-9760(090-4618-1295)